

日本古生物学会 2015 年年会・総会

2015年6月26日（金）～ 6月28日（日）：産業技術総合研究所共用講堂

共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター・国立科学博物館・筑波大学

* * * * * 1. プログラム 概要 * * * * *

6月26日（金）会場：産業技術総合研究所 A会場

- 【13：00-16：30】シンポジウム「新生代貝類研究の最前線と今後の展開」…………… ii
【16：40-17：40】総会…………… iii
【19：00-21：00】懇親会（ホテルグランド東雲）…………… iii

6月27日（土）会場：産業技術総合研究所 A～C会場

- 【9：00-9：50】学術賞受賞記念特別講演（A会場）…………… iii
【10：00-10：50】会長講演（A会場）…………… iii
【11：05-12：05】一般講演 口頭発表 1（A～C会場）…………… iii
【13：00-14：00】一般講演ポスター発表コアタイム（1F ポスター会場）…………… iv-vi
【14：15-15：15】一般講演 口頭発表 2（A～C会場）…………… vi
【15：30-16：45】一般講演 口頭発表 3（A～C会場）…………… vii
【17：00-17：15】一般講演 ポスター賞表彰式（受付付近）…………… vii
【17：30- 】夜間小集会（B会場）…………… vii

6月28日（日）会場：A-C会場

- 【9：00-10：00】一般講演 口頭発表 4（A～C会場）…………… viii
【10：15-11：30】一般講演 口頭発表 5（A～C会場）…………… viii-ix
【13：30-14：30】化石友の会イベント「かはくの化石収蔵庫ツアー」…………… ix

発表方法と発表機器についての注意事項（必ずお読み下さい）…………… x
会場案内・交通案内など…………… xi-xiii

2015年年会参加費 一般会員・非会員5,000円 学生会員2,000円 友の会会員1,000円
高校生以下無料（予稿集は有料1冊500円）

******* 2. プログラム 詳細 *******

6月26日（金）産業技術総合研究所 A会場

シンポジウム「新生代貝類研究の最前線と今後の展開」

コンビナー：加瀬友喜（国立科学博物館）・中島 礼（産業技術総合研究所）

本邦における新生代貝類は他の時代に比べて保存が良好なことや産出が多いことから、100年以上前から研究が進められ、記載分類から始まり系統進化、古生物地理、古生態など多くの研究テーマが行われている。近年では、分析機器の発達から貝殻の微細構造や遺伝子や化学組成など微小領域の情報を活用することが可能となり、研究の幅が広がっている。また、従来の記載分類学に基づく化石データの蓄積からも新たな系統進化や古生態の研究も着実に進められている。今回のシンポジウムでは、近年における多様な研究手法を用いた新生代貝類の研究成果を発表するとともに、今後の研究発展に向けた貝類研究の課題を議論することを目的とする。

13:00～13:05 趣旨説明 中島 礼

13:05～13:30 新生代貝類の生態的放散と生物地理：アマオブネ上目腹足類を例に 狩野泰則（東大大気海洋研）

13:30～13:55 軟体動物の貝殻色素：その正体と色彩パターン形成 石川牧子（ヤマザキ学園大）

13:55～14:20 穿孔性二枚貝ニオガイ上科の適応放散史 -分子系統・化石記録から形態・食性進化に迫る- 芳賀拓真（豊橋市博）

14:20～14:45 発生から探る新奇形質獲得の仕組み -二枚貝の殻と腹足類の蓋- 栗田喜久（東北大）

14:45～15:00 休憩

15:00～15:25 記載分類学ノスゝメ～日本産新生代貝類を題材として～ 松原尚志（北教大釧路）

15:25～15:50 実験古生物学-貝殻微細構造、化学組成にみる貝類のバイオミネラリゼーション- 西田 梢（産総研）

15:50～16:15 二枚貝の殻に記録される新生代気候変動と生物の応答様式 宮地 鼓（苫小牧市博）

16:15～16:30 総合討論 加瀬友喜

【16:40～17:40】総会（A会場）

【19:00～21:00】懇親会

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前にメールかハガキで 6 月 18

日（木）〔必着〕までに、「一般・友の会・非会員」あるいは「学生」かの区分を明記の上、お申し込み下さい。産業技術総合研究所から懇親会会場まで送迎バス（300 円）を用意しているので、バスを利用される場合は「送迎バス利用」と明記してください。

会 場：ホテルグランド東雲 有明の間 [〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 488-1]

<http://www.hg-shinonome.co.jp>

会 費：一般会員・非会員・友の会会員 6,000 円, 学生 4,000 円

申込先：真鍋 真（国立科学博物館）

メール： psj_tsukuba2015@yahoo.co.jp

ハガキでの申込先：305-0005 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 真鍋 真宛

6 月 27 日（土）

【9:00–9:50】学術賞受賞記念特別講演（A 会場）

佐々木猛智「軟体動物の多様性と系統進化」

【9:50–10:00】休憩

【10:00–10:50】会長講演（A 会場）

大路樹生「ウミユリについて分かってきたこと」

【11:05–12:05】一般講演 口頭発表 1（A～C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
形態解析・古脊椎動物の部 座長：久保 泰	微化石・古環境の部 座長：土屋正史	古生態の部 (1) 座長：椎野勇太
A01 w Felix Marx・R. Ewan Fordyce You are what you eat: suction feeding in ancient pygmy right whales supports a close Caperea-cetothere relationship	B01 w 松岡篤 InterRad 15 の 2017 年日本開催とその意義	C01 w 泉賢太郎 植物プランクトンのブルームに同期した底生生物の摂食活動：生痕化石 <i>Phymatoderma</i> からの示唆
A02 w 安藤瑚奈美・藤原慎一 四肢を残したまま陸に別れを告げた哺乳類—束柱類とクジラ類	B02 m 堀利栄・新木雄之・鈴木紀毅・辻彰洋 蛍光試薬 HCK-123 による現生放散虫スプメラリアの殻成長観察	C02 w 兼子義高・鳥居洋・佐藤慎一・洪在上 日本と韓国における化石ハマグリ類の貝殻形態解析
A03 w 藤原慎一・安藤瑚奈美・真鍋真 <i>Tyrannosaurus</i> の前肢は体重を支えるのにどこまで役立たず？	B03 m 豊福高志・他 2011 年太平洋東北沖地震・津波による下北沖の有孔虫群集変動	C03 w 佐藤慎一 韓国沿岸における干潟底生動物相の現状とその時間的变化
A04 w 鈴木大輔 アリゲーター科の足関節運動のメカニズム	B04 m 岩崎晋弥・木元克典・佐々木理・鹿納晴尚 北太平洋亜寒帯域における浮遊性有孔虫の分布および X 線 CT による殻密度の測定	C04 w 鈴木元紀・齋藤礼弥・金沢謙一 ナガウニ類四種の生活様式と形態

【12:05-13:00】 昼 食

【13:00-14:00】 一般講演 ポスター発表コアタイム

- P01 西岡佑一郎 タイ東北部コラート化石博物館の哺乳類化石コレクション
P02 長谷川善和・国府田良樹・鈴木久仁博・飯泉克典・加藤太一・利光誠一・中島礼・兼子尚知・安藤寿男 茨城県下のナウマンゾウ化石
P03 飯泉克典・国府田良樹・鈴木久仁博・安藤寿男・飯塚光敏・長谷川善和 茨城県鹿嶋市の下総層群木下層 (中部更新統) より産出したナウマンゾウの切歯化石
P04 松岡廣繁・丸山啓志・北川博道・森本直記・中務真人・大野照文・長谷川善和 ナウマンゾウ模式標本切歯の「ねじれ」復元を目指して
P05 松井久美子 デスモスチルス類上腕骨の形態比較-上腕骨形態からいかに正確な分類を行うか-
P06 半田直人・中務真人・國松豊・仲谷英夫 東アフリカにおける中新世のサイ科動物相の変遷
P07 森浩嗣・Felix G. Marx・甲能道樹・仲谷英夫・赤崎広志 宮崎県串間市日南層群から発見された小型の初期新鯨類の上腕骨について
P08 田中嘉寛・R ユワン フォーダイス ニュージーランド産漸新統イルカ化石が見せるガンジスカワイルカ上科初期の歴史
P09 平本潤・指田勝男・上松佐知子・甲能直樹 神奈川県川崎市の下部更新統飯室層より産出したイルカ類化石の古生物学的再検討
P10 宮田和周・東洋一・柴田正輝 福井県勝山市の下部白亜系北谷層から産出した真三錐歯類 (哺乳類) 化石の系統解析
P11 田邊佳紀・中務真人・國松豊・仲谷英夫 ケニア北部・上部中新統ナカリ層より産出した *Nakalimys lavocati* (Tachyoryctinae、齧歯目) の咬耗による臼歯咬合面の形態変化について
P12 鏑本武久 タヌキの歯に見られる異常形態とそれが化石哺乳類の歯牙形態の解釈に与える影響
P13 堀智彦 ニホンヤマネ (*Glirulus japonicus*) の臼歯形態—化石種との比較検討にむけて
P14 江木直子・荻野慎諧・Zin-Maung-Maung-Thein・Chit-Sein・Thaung-Htike・西岡佑一郎・鏑本武久・高井正成 イラワジ堆積物 (ミャンマー; 中部中新統上部~下部更新統) から産出した食肉類についての予備的報告
P15 石塚麻奈・對比地孝亘 化石単弓類 *Dimetrodon* の後肢筋肉系復元の再検討
P16 松本涼子・平山廉・武川愛・吉田将崇・三塚俊輔・滝沢利夫・堤之恭 岩手県久慈市の久慈層群玉川層から産出したコリストデラ類
P17 柴田正輝・東洋一 下部白亜系北谷層から発見されたイグアノドン類の体骨格化石
P18 久保泰 系統を考慮した化石トカゲの速度復元
P19 岡本淳・ジェンキンズ ロバート・森谷和浩・平山廉・佐藤たまき 化学合成生物群集を共産した白亜紀ウミガメ類の遺骸
P20 宮田真也・藪本美孝 山口県古第三紀宇部層群産スズキ目魚類の予察的再検討
P21 新村龍也・田中嘉寛・甲能直樹・山田一孝・佐々木基樹 写真を用いた頭蓋骨の3Dモデル化と、3D CG ソフトウェアを用いた生体復元
P22 唐沢與希・野下浩司・前田晴良 アンモノイド類の殻断面形態の力学特性
P23 加藤太一・安藤寿男 異常巻きアンモナイトの殻形態における適応的意義
P24 佐藤圭・佐々木猛 二枚貝原鰐亜綱における貝殻微細構造の進化
P25 佐野晋一・伊庭靖弘・P. W. SKELTON・J.-P. MASSE・Y. M. AGUILAR・加瀬友喜 太平洋域は白亜紀中頃の厚歯二枚貝進化の重要な舞台だった—フィリピン・セブ島からの新たなポリコニテス科厚歯二枚貝—
P26 長井裕季子・豊福高志・多米晃弘・植松勝之・和辻智郎・生田哲朗・高木善弘・吉田尊雄・小西正朗 酸化-還元環境が共存する飼育水槽を用いた深海性共生二枚貝シロウリガイ類の室内飼育の試み

- P27 中山健太郎・近藤康生 日本産ニシキウズガイ科腹足類 *Umbonium* 属における現生種の出現に伴う生態変化
- P28 山岡勇太・近藤康生 鮮新世—更新世境界前後の寒冷化に伴う貝類群集の変遷：高知県安田町唐浜地域の穴内層の例
- P29 千徳明日香・徳田悠希・江崎洋一 サンゴモドキ科サンゴ *Crypthelia* 属（ヒドロ虫綱）の群体形成様式
- P30 小松俊文・坂本知霞・三宅優佳・Matthew H. Dick 九州南西部の甕島列島に分布する上部白亜系姫浦層群から産出するコケムシ（カイロストマータ類）
- P31 田中源吾・逸見泰久 介形虫の殻表面にみられる微小摩耗痕
- P32 安藤佑介・岸本眞五・北尾史真・河野重範・柄沢宏明 勝田層群（岡山県津山市）および荃永層群（鹿児島県南種子町）から産出したオキナワアナジャコ属化石
- P33 高橋唯・須島充昭・山本周平 世界7例目の昆虫のコンプレッション交尾化石：栃木県塩原産のクロバネキノコバエ化石(双翅目：クロバネキノコバエ科)
- P34 泉賢太郎・吉澤和子 神奈川県の上野原層群と三浦層群から初めて発見された生痕化石 *Phymatoderma*：生痕形成生物とその古生態に関する示唆
- P35 椎野勇太・徳田悠希 化石に残された表在生物への理解に向けて
- P36 近藤康生・奈良正和 高知県佐川地域に分布する鳥の巣層群谷地層の古環境と貝類古生態：潮汐堆積物に基づく再検討
- P37 鹿澤優祐・酒井佑輔・松岡篤 福井県大野市長野地域における手取層群の岩相層序と産出化石
- P38 酒井佑輔・藺田哲平・堤之恭・楠橋直・堀江憲路・松岡篤 石川県白峰地域における手取層群赤岩亜層群の凝灰岩から得られたジルコンの U-Pb 年代
- P39 浦川良太・小松俊文・高嶋礼詩・尾松圭太・西弘嗣 日出島に分布する下部白亜系宮古層群の堆積環境と産出化石
- P40 江原一樹・坂本知霞・小松俊文 御船町北東部に分布する御船層群の層序と産出化石
- P41 西村友志・矢部淳・入月俊明・河野重範・松原尚志 松江市美保関町の下部中新統古浦層上部から産出した化石群集
- P42 上栗伸一 中～後期中新世のカリフォルニア海流の変遷史
- P43 Tatsuhiko Yamaguchi・James Goedert・Steffen Kiel Marine ostracods from Paleogene cold-seep deposits in Washington State, USA and their ecological structure
- P44 藤原勇樹・入月俊明・藤原治 静岡県西部太田川低地における完新世の貝形虫群集と古環境変化
- P45 米光亮貴・入月俊明・瀬戸浩二 瀬戸内海播磨灘北部における過去約 2400 年間の貝形虫群集の変化
- P46 亀尾浩司・岡田誠 房総半島陸上セクションの検討に基づく北西太平洋地域の鮮新更新統石灰質ナノ化石基準面
- P47 加藤悠爾・須藤斎 ウェッデル海に産する珪質微化石を用いた古海洋環境復元
- P48 渡邊絵美・鈴木紀毅・竹本真佑里・山北聡・高橋聡・武藤俊・臼井洋一・池田昌之 上部石炭系の標準放散虫化石帯を設定したセクションの再検討
- P49 Xin Li・Atsushi Matsuoka・Yalin Li・Chengshan Wang Late Paleocene radiolarian faunas from sediments south to the Yarlung-Tsangpo suture zone and its implication for the evolution of the Neo-Tethys
- P50 高木悠花・木元克典・藤木徹一・守屋和佳・平野弘道 浮遊性有孔虫光共生の栄養機能の実験的検証
- P51 金子稔・野村正弘・田中源吾 微化石を使った地学部の指導
- P52 福嶋徹 牛乳パック・リサイクルによる簡易化石標本箱 *Coffret du fossile*（コフレ・フォッシル）の作成と活用法

高校生ポスターセッション

- HP1 岡村太路 後頭骨化石からイルカの首の動きを復元できるのか～千葉県市宿層産出のマイルカ科頭骨化石の研究～
- HP2 石塚創太・池知正弘・国広亮太・高橋悠太・近藤結子・本藤紫乃 茨城県小野川河床の下総層群の貝化石密集層について
- HP3 藤本侑生・伊東一磨 三葉虫の濾過採食機能についての検証
- HP4 原島舞・今橋春日・佐藤有花・猪口華蓮・松倉亜里紗 群馬県板倉コアの介形虫化石と有孔虫化石
- HP5 坂本悠莉 佐渡島沢根層から産出する珪藻化石の大きさと胞紋の数

【14:00-14:15】休 憩

【14:15-15:15】一般講演 口頭発表 2 (A～C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長:林 昭次	古環境の部 (1) 座長:豊福高志	分類・系統進化の部(1) 座長:鈴木紀毅
A05 m 中島保寿・松本涼子 水棲爬虫類コリストデラの骨内リモデリングに見られる特異性	B05 m 海保邦夫・静谷あてな・山田憲司・大庭雅寛・菊池みのり・陳中強・童金南・小宮剛・千馬直登・高橋聡・伊藤幸佑・宮地崇・齊藤諒介・佐野弘好 生物の大進化・大絶滅と海洋酸素の関係	C05 w 伊藤剛・顧松竹・艾燕・馮慶来 南中国貴州の上部ペルム系大隆層から産出した <i>Corythoecidae</i> 科の放散虫化石
A06 m 平山廉・藺田哲平・高井正成・タウン タイ・ジン マウン マウン テイン・高橋亮雄 ミャンマー新第三紀イラワジ層より産出した巨大なリクガメ <i>Megalochelys</i> に関する新知見	B06 m 海保邦夫・大島長・足立恭将・足立光司・水上拓也・藤林恵・齊藤諒介 成層圏グローバル燃焼煙雲が恐竜の絶滅を起こした	C06 w 十津守宏 生命の進化の方向性についての形而上学的議論は成立するのか？
A07 m 岡崎美彦 関門層群からの淡水性板鰓類 <i>Heteroptychodus</i> の産出	B07 m 石村豊穂・長谷川四郎・池原研 底生有孔虫の個体別同位体組成の均質性：再堆積評価への応用	C07 m 若山典央 ミオドコーパ類のニンジャ適性
A08 w 田中郁子・江崎保男・佐藤稔・山崎和仁・兵頭政幸 同一堆積物上におけるコウノトリの足跡計測	B08 w 北村晃寿・伊藤真実・坂井三郎 二枚貝貝殻の酸素同位体比に基づく津波の発生季節の推定	C08 m 山北聡・松永英里・大藤茂 <i>Neostrachanognathus</i> のシニアシノニムとしての三疊紀コノドント <i>Kamuellerella</i>

【15:15-15:30】休 憩

【15:30-16:45】一般講演 口頭発表 3 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 中島保寿	形態解析の部 座長: 藤原慎一	分類・系統進化の部 (2) 座長: 佐々木猛智
A09 w 鵜野光・木村方一 北海道釧路市阿寒の中新統殿来層のパレオパラドキシア類(哺乳類: 束柱目)の臼歯に見られる形態変異	B09 w 生形貴男 統計的モデル選択による大量絶滅・回復様式の評価	C09 w 安里開士・加瀬友喜・小野輝雄・指田勝男・上松佐知子 岐阜県大垣市のペルム紀赤坂石灰岩から産する <i>Shikamaia</i> 属の分類
A10 m 犬塚則久 絶滅哺乳類の外鼻の復元	B10 m 唐沢與希・前田晴良 化石オウムガイ類に固有な埋没後破壊が示す殻構造強度	C10 w 辻野泰之・前田晴良 後期白亜紀(コニアシアン期~カンパニアン期前期)における異常巻きアンモノイド <i>Baculites</i> の形態変化
A11 近藤洋一 新潟県笹ヶ峰産ナウマンゾウ化石の14C年代と野尻湖産ナウマンゾウ化石	B11 m 山田敏弘・佐々木悠介・Charles S Gasser リニア植物における Class III Homeodomain-Leucine Zipper 遺伝子の“機能解析”	C11 w 棚部一成・御前明洋・辻野泰之・Kruta Isabelle・Landman Neil H. 後期白亜紀異常巻きアンモナイト類の顎器形態とその分類学・古生態学的意義
A12 w 林昭次・久保麦野・藤田祐樹・大城逸朗 骨組織から考察する島嶼産化石リュウキュウジカの生活史	B12 m 江崎洋一・千徳明日香 サンゴ個体の極性と群体の左右対称性 - 個と全体の関係性 -	C12 w 田尻理恵・藤田敏彦 岩石薄片作製技術を応用した動物の硬組織と軟組織の同時観察法
A13 w 山田英佑・久保麦野・久保泰・甲能直樹 国際工業規格に基づく現生ニホンジカ臼歯のマイクロウェア解析	B13 w 徳田悠希・江崎洋一 <i>Truncatoflabellum</i> 属(イシサンゴ目センスガイ科)の横分裂に伴う骨格成長の加速とその適応的意義	

【17:00-17:15】ポスター賞表彰式 (ポスター会場付近)

【17:30- 】夜間小集会 (B 会場)

微化石生物の分子系統学・生態学の最前線

世話人: 氏家由利香・齋藤めぐみ・豊福高志

趣旨: 微化石試料を用いた進化・環境復元などに関する研究発展のためには、分類群の枠を超えた広い視野から微化石類の分子系統や生態を理解することが大変重要である。今回は海底~海洋表層に生息する生物・化石群を用いた先端的研究を話題提供して頂く。それを踏まえ、研究分野を超えた研究の現状・展望などの話し合いを通じて、関連研究者の交流・連携を強化し、微化石研究の飛躍的発展へつないでいきたい。

話題提供: 安原盛明氏「底水温の深海生物多様性への影響」

仲村康秀氏「フェオダリア類の進化系統および生態に関する総合的な研究紹介」

石谷佳之氏「放散虫・有孔虫を用いた分子生物学的研究」

6月28日(日)

【9:00-10:00】一般講演 口頭発表 4 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古生態の部 (2) 座長: 松岡 篤	古環境の部 (2) 座長: 入月俊明	生層序・古生物地理の部 座長: 上松佐知子
A14 m 石谷佳之・瀧下清貴 日本海における放散虫 <i>Larcopyle buetschlii</i> の幅広い鉛直分布	B14 m 駒越太郎・渡邊剛・白井厚太郎・Hita Pandita・栗原行人・加瀬友喜 インドネシアジャワ島産の化石シャコガイに記録された後期中新世の気候	C14 m 矢部淳・山川千代美 化石コウヨウザン属 <i>Cunninghamia protokonishii</i> Tanai et Onoe の再検討: その古植物地理学的意義について
A15 m 土屋正史・宮脇省次・力石嘉人・小栗一将・豊福高志・多米晃裕・植松勝之・竹田晃治・坂井宥哉・三宅裕志・大河内直彦・丸山正 底生有孔虫 <i>Planoglabratella opercularis</i> にみられる盗葉緑体の獲得機構と殻形成に与える影響	B15 m 渡邊貴昭・渡邊剛・山崎敦子・Miriam Pfeiffer・Dieter Garbe-Schönberg・Michel R Claereboudt オマーン周辺海域のサンゴ骨格に記録されたインド洋ダイポール現象	C15 w 奥村よほ子・田沢純一・三宅幸雄・水原猛 足尾山地葛生地域大釜から産出した前期ペルム紀腕足類フオーナ
A16 m 守屋和佳・筒井啓太 白亜紀セノマニアン期中期の浮遊性有孔虫 <i>Hedbergella delrioensis</i> のサイズ分布と海水温, 生産性の共変動	B16 w 野村律夫 地球温暖化を検証するための汽水湖の長期調査の試み	C16 w 嶋田智恵子・山崎誠・天野和孝・Robert G. Jenkins・疋田吉識・田中裕一郎・秋葉文雄 北海道東部浦幌町の古第三系縫別層から産出する珪藻化石群集
	B17 w 伊津野郡平・芝原暁彦・青木正博 ハメリンプールの潮間帯におけるストロマトライトの形状変化	C17 w 高橋宏和 北海道南西部の下部中新統産熱帯性干潟貝類化石群について

【10:00-10:15】休 憩

【10:15-11:30】一般講演 口頭発表 5 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
分類・系統進化の部 (3) 座長: 田中源吾	古環境の部 (3) 座長: 守屋和佳	生層序の部 座長: 奥村よほ子
A18 w 鈴木紀毅・桑原希世子・標準化作業 WG 参加者一同 古生代放散虫の属名の標準化事業	B18 w 岩谷北斗・安原盛明・デリア オッポ・ヤー ローゼンタール・ブラドック リンスリー インドネシア通過流域における完新世貝形虫の時系列変化	C18 w 上松佐知子・指田勝男・奥村廣行・高木洋一・平松圭・安里開士 ペルム系赤坂石灰岩の中部層から産するコノドント

A19 w 仲村康秀・今井一郎・宗宮麗・辻彰洋・鈴木紀毅 日本近海におけるフェオダリア類の生態と分布	B19 m 入月俊明・光部実希・大串健一・川幡穂高・木元克典 陸奥湾の完新世貝形虫群集と環境の 100～1000 年スケールの変化	C19 w 前川匠・小池敏夫・小松俊文・重田康成・前田晴良 田穂石灰岩から産出した下部三畳系インドゥアン階～オレネキアン階のコンドント化石群集
A20 m 木元克典・中村由里子・倉沢篤史 太平洋より発見された新しい浮遊性二列状旋回有孔虫の空間分布及び分子系統	B20 m 山田桂・古幡薫・岩谷北斗 宮崎層群佐土原層における中期鮮新世温暖期の底層水温変動	C20 m 中澤努・上野勝美・藤川将之 前期ペルム紀気候期転換期の礁環境におけるマイクロブの多産：秋吉石灰岩の例
A21 m 氏家由利香・石谷佳之 化石記録と分子時計からみた浮遊性有孔虫の進化	B21 m ルグラン ジュリアン・山田敏弘・寺田和雄・辻野泰之・西田治文 日本に花が咲いた時：花粉化石からみた被子植物の侵入と多様化	C21 m 本山功・田邊勝彦・川村好毅・澤田大毅・柳沢幸夫 長野県上田市太郎山周辺の中新統の地質と放散虫化石層序
A22 m 齋藤めぐみ・辻彰洋 形態と遺伝子からみた珪藻の系統関係—淡水浮遊性珪藻を例に—		C22 m 竹村厚司・竹村静夫・植野輝・菅森義晃・古谷裕 岡山県東部の超丹波帯チャート層から産出したデボン紀後期放散虫化石

【11:30～】ランチョン (B 会場)

2017 年 INTERRAD 日本開催に向けて

世話人：松岡 篤・板木拓也

趣旨：23 年ぶりに日本で INTERRAD が開催されることになった。国際研究集会に際し、関連分野の連携や若手研究者の育成を重視している。ランチョンで出された意見を、INTERRAD のプログラム作成に生かしていきたい。放散虫関係者のみならず、関心のある方にはぜひ参加していただきたい。

【13：30～14：30】化石友の会イベント「かはくの化石収蔵庫ツアー」

会 場 国立科学博物館筑波研究施設の総合研究棟(茨城県つくば市天久保)

定 員 30 名 (事前申込制)

集合場所・時間 総合研究棟 1 階ロビーに 13 時 30 分に集合

申込・問い合わせ先 中島 礼 (産業技術総合研究所)

メール：friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp / 電話：029-861-2554

科博への交通アクセスは以下を参照

<https://www.kahaku.go.jp/institution/shinjyuku/index.html>

参加するには学会参加費が必要です(友の会会員 1,000 円). 学生は無料です。

*** * * * 3. 発表方法と発表機器についての注意事項 * * * ***

〈一般講演（口頭発表）をされる方へ〉

●データの受け渡しは、学会受付で行って下さい。6月26日（金）の午後から受け付けます。混雑が予想されますので、時間の余裕を持ってお越し下さい。受付時に作成した OS の種類と PowerPoint のバージョンをお知らせください。

〈ポスター発表される方へ〉

- ポスターのサイズはA0ノビ版（ヨコ 914 mm×タテ 1,292 mm）が基準です（画鋏可）。一発表につき縦 180 cm×横 120 cm のボード 1 枚を使用します。
- ポスター発表のコアタイムは、6月27日（土）13:00～14:00 ですが、ポスターは前日の午後から貼ることができます。なお、ポスターは、6月28日（日）12:00 までに各自撤収して下さい。詳しくは会場受付または会場係までお尋ね下さい。

〈会場および発表方法・機器などに関する連絡・問い合わせ〉

会場係：中島 礼（産業技術総合研究所）

E-mail : rei-nakashima@aist.go.jp

電話：029-861-2554, FAX：029-861-3653

行事係：佐々木猛智（東京大学総合研究博物館） E-mail : sasaki@um.u-tokyo.ac.jp

●懇親会について 本プログラム ii ページ参照

●昼食に関する情報

6月27日（土）・28日（日）に開店している産業技術総合研究所内または近くにお店はありません。6月27日・28日の昼食につきましては駅周辺で購入するなど各自で用意していただくほか、お弁当（500 円）の予約を受け付けますので下記担当まで、6月19日（必着）までにお申し込みください。お弁当は休憩室で配布いたします。

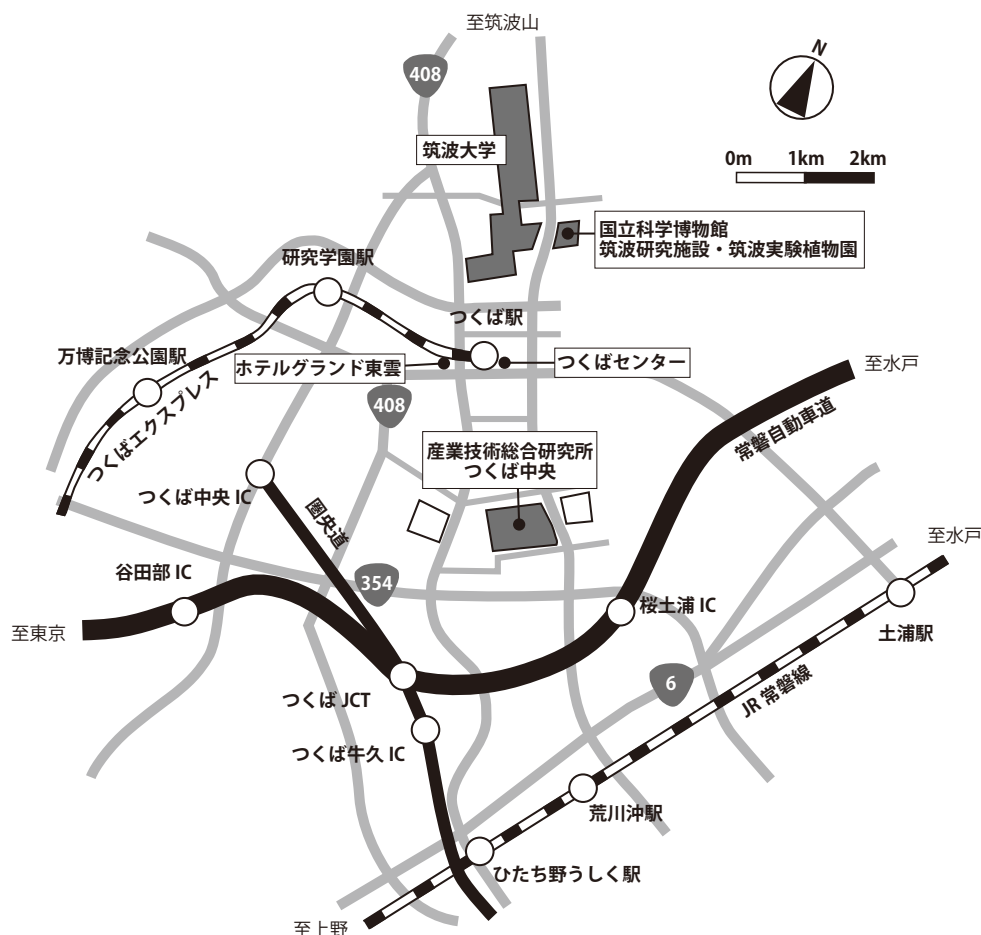
申込先：宇都宮正志 E-mail : m.utsunomiya@aist.go.jp

ハガキ：〒305-8567 つくば市東 1-1-1 中央第 7 宇都宮正志宛

- 学会会場内での飲食は休憩室（多目的室）と 2 階ロビー以外は禁じられています。共用講堂内は全館禁煙です。喫煙所は共用講堂正面の厚生センター 2 階の屋外に設置されています。
- 盗難対策 最近、本学会を含め、学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は各自の責任で管理をお願いいたします。
- お車でのお来場 会場周辺に学会参加者が利用できる駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用下さるようお願いいたします。

* * * * * 4. 会場案内 * * * * *

産業技術総合研究所（学会会場）およびつくば駅周辺の案内図



産業技術総合研究所（学会会場）への交通アクセス

産業技術総合研究所へのアクセスは以下のサイトをご参照下さい。
http://www.aist.go.jp/aist_j/guidemap/tsukuba/tsukuba_map_main.html

●つくばエキスをプレスをご利用の場合

「秋葉原駅」から快速で45分、終点の「つくば駅」下車。つくばバスターミナル4番乗り場から関東鉄道バス「荒川沖駅（西口）行（並木経由）」、「筑波宇宙センター経由（学園南循環）」または「桜ニュータウン行」にご乗車、「並木二丁目」で下車。バス乗車時間は15分～20分。運賃270円。

http://www.aist.go.jp/aist_j/guidemap/tsukuba/tsukuba_c_express.html（つくばエキスをプレスとバスの乗り換え案内）
<https://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/timetable/center/04.pdf>（4番乗り場の時刻表）

●JR 常磐線をご利用の場合

「上野駅」から60分、「荒川沖駅」で下車。西口4番乗り場から関東鉄道バス「筑波大学中央行」または「つくばセンター行（並木経由）」に乗り、「並木二丁目」下車。バス乗車時間は約20分。運賃280円。

●高速バスをご利用の場合

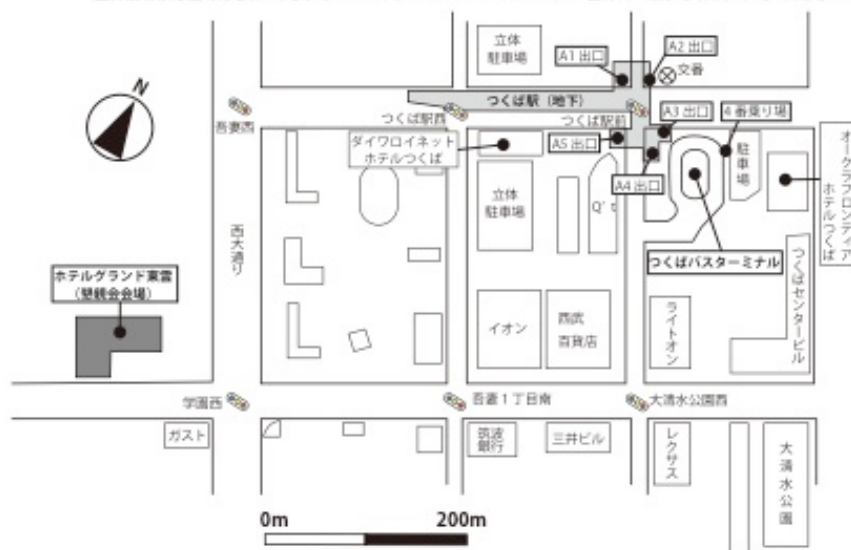
東京駅八重洲南口バスターミナル2番乗り場から「筑波大学／つくばセンター行」（常磐高速バス約65分、片道1,180円）に乗り、「並木二丁目」下車。

ジェーアールバス関東株式会社（<http://www.jrbuskanto.co.jp/>）

●駅からタクシーを利用する場合は、「産総研つくば中央の地質標本館」を行き先にしてください。

懇親会会場（ホテルグランド東雲）およびつくばセンター周辺案内図

懇親会会場は、つくばバスターミナルあるいはつくば駅 A5 出口から徒歩 8 分かかります。
産業技術総合研究所に向かうバスは、バスターミナルの 4 番乗り場から乗車してください。



産業技術総合研究所つくば中央の案内図

学会会場となる共用講堂は、並木 2 丁目バス停から徒歩約 6 分かかります。



学会会場案内図（共用講堂内）

- 共用講堂内で飲食できるのは1階の休憩室（多目的室）と2階ロビーだけです。屋外ではウッドデッキでも飲食可能です。
- 自販機は共用講堂1階トイレ付近と共用講堂の正面にある厚生センター1階にあります。
- 厚生センター2階には平日だけ開いている売店があります。
- 喫煙所は共用講堂正面の厚生センター2階の屋外にあります。
- 共用講堂内では無線 LAN が利用できます。各会場に SSID と KEY が掲示されています。

